

## 鈴木 正男先生 略年譜

### 学歴

- 1957年 4月 静岡県立下田北高等学校入学  
1960年 3月 同卒業  
1960年 4月 自宅研修  
1961年 4月 東京大学教養学部理科二類入学  
1965年 3月 東京大学理学部生物学科人類学課程卒業  
1965年 4月 東京大学大学院生物系研究科人類学専門課程修士課程入学  
1967年 3月 東京大学大学院理学系研究科人類学専門課程修士課程修了  
1967年 4月 東京大学大学院理学系研究科人類学専門課程博士課程入学  
1970年 3月 東京大学大学院理学系研究科人類学専門課程博士課程単位取得満期退学  
1970年 4月 東京大学理学部研究生（～1971.06）  
1970年 4月 日本学術振興会奨励研究員（～1971.06）

### 学位

- 1967年 3月 理学修士（東京大学）  
1973年 12月 理学博士（東京大学第 3159 号）

### 職歴

- 1970年 9月 日本大学法学部兼任講師（～1971.3）  
1970年 10月 東京歯科大学兼任講師（～1972.3）  
1971年 4月 神奈川大学兼任講師（～1979.3）  
1971年 6月 東京大学理学部助手（～1974.3）  
1973年 4月 早稲田大学法学部兼任講師（～1981.3）  
1974年 3月 東京大学理学部助手退職  
1974年 4月 立教大学一般教育部助教授  
1974年 4月 東京大学総合研究資料館研究協力者（～1976.3）  
1974年 9月 慶応義塾大学法学部兼任講師（～11）「人類学」担当  
1975年 10月 東京大学理学部兼任講師「年代学」担当（冬学期：1981・1982年度海外研究のため中断，～2003.3.31）  
1977年 4月 明治大学文学部兼任講師「人類学」／「自然科学と考古学」（隔年開講）担当（1981・1982年度海外研究のため中断，～2004.3）

- 1977年7月 国際協力事業団派遣コロンボ計画技術協力専門家（～10.9, 1978.7～10, 1979.7～9）
- 1978年4月 東京大学教養学部兼任講師（～1979.3）「人類学」担当
- 1987年4月 立教大学一般教育部教授
- 1995年4月 立教大学理学部総合講座教授
- 1996年10月 東京学芸大学教育学部（文化財科学科）兼任講師（～2000.3）「文化財科学特殊講義」担当
- 1997年4月 立教大学理学部化学科教授（～2004.3）
- 1997年4月 立教大学大学院理学研究科博士課程前期・後期課程化学専攻教授（～2007.03）
- 1997年4月 立教大学原子力研究所員
- 2004年4月 立教大学社会学部現代文化学科教授（～2007.03）

### 学内役職

- 1991年4月 立教大学一般教育部長・評議員（～1993.3）
- 1993年4月 立教大学国際センター長（～1999.3.）
- 1996年10月 立教大学原子炉統括本部副本部長（～1999.3）
- 1999年4月 立教大学原子力研究所長（～2007.03）
- 1999年4月 立教大学原子炉施設統括本部長（～2007.03）

### 学会ならびに社会における活動

- 1965年4月 日本人類学会会員
- 1968年4月 日本第四紀学会会員
- 1969年4月 日本地質学会会員
- 1973年1月 日本人類学会幹事（～1974.12）
- 1973年2月 日本第四紀学会評議員（～1981.1）
- 1973年2月 日本第四紀学会幹事（～1977.1）
- 1974年5月 日本考古学協会会員
- 1976年2月 日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員（～1978.1）
- 1977年1月 Nuclear Track Detection (Pergamon Press, London) 編集顧問委員会委員（～1981.12）
- 1979年1月 日本人類学会幹事（～12）
- 1981年10月 Max-Planck-Institut für Kernphysik（～1982.3；Heidelberg, Germany）客員研究員
- 1982年4月 United States Geological Survey（～10；Denver, U.S.A.）客員研究員
- 1982年11月 Geological Research and Development Centre（～1983.3；Bandung, Indonesia）客員研究員
- 1983年3月 日本文化財科学会会員

- 1984年4月 日本火山学会会員  
 1985年7月 日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員・幹事  
 1985年8月 日本第四紀学会評議員・幹事（～1887.7）  
 1986年8月 FTD Working Group (Subcommission on Geochronology, IUGS) 委員（～1988.7）  
 1992年 International Association for Obsidian Studies (U.S.A.) 会員  
 2000年度 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（部・複合領域分科・文化財科学）（第1段審査委員）（～2001年度）  
 2004年 Journal of Mediterranean Archaeology and Archaeometry 編集委員（～現在に至る）  
 2005年 Indo-Pacific Prehistory Association (Australia) 会員

### 海外研究・調査／国際会議（\*発表あり）

- 1968年8月29日 国際人類学民族学会議\*（～9.7；東京・京都）  
 1973年8月26日 国際人類学民族学会議\*（～9.12；Chicago, U.S.A.）  
 1973年11月19日 国際第四紀研究連合会議\*（～12.19；Christchurch, New Zealand）  
 1980年9月1日 2nd Fission Track Dating Workshop\*（～9.24；Pisa, Italy）  
 1983年8月29日 国際アジア・北アフリカ人文科学会議\*（～9.7；東京・京都）  
 1984年7月31日 3rd Fission Track Dating Workshop\*（～8.4；Troy, U.S.A.）  
 1986年10月14日 International Colloquium on Quaternary Stratigraphy of Asia and Pacific Area\*（～10.18；大阪）・組織委員会委員  
 1986年 INQUA Congress\*（Ottawa, Canada）  
 1988年7月31日 4th Fission Track Dating Workshop\*（～8.4；Besancon, France）・組織委員会委員・Chairperson  
 1992年 第1回イースター島調査（チリ共和国大使館招聘）  
 1993年 第2回イースター島調査（私費）  
 1995年 第3回イースター島調査（高梨学術奨励基金研究助成金）  
 1996年 International Workshop on Archaeology in Easter Island and East Polynesia\* 基調講演（第4回イースター島調査）  
 1998年 第5回イースター島調査（私費）  
 2003年7月2日 Melos International Workshop\*, Melos Island, Greece, 2-5 July, 2003（招待講演）  
 2003年 第6回イースター島調査（理学部海外研究費）  
 2004年9月2日 Obsidian Summit International Workshop\*, Tokyo and Nagano, 2-6 September, 2004. 組織委員会代表（立教大学国際会議助成金他）  
 2005年 第7回イースター島調査（社会学部海外研究費・地球環境財団研究奨励助成金）  
 2006年3月20日 18th Indo-Pacific Prehistory Association Congress\*, University of the Philippines, Manila, 20-26 March 2006.  
*Masao Suzuki (Rikkyo University) : "What are the prerequisites and limitations of source identification of archaeological obsidians?"*

Watanabe, K., Liritzis, I., Ganetsos, T., Novak, S. W., Laskaris, N., Suzuki, M., Sasaki, K., and Ikeya, N.: "Hydrogen ion profiling of obsidian hydration layer using SIMS-SS"

### 受賞・科学研究費補助金・受託研究・学内研究奨励助成金・その他

(1995年度以降の資料を整備した)

- 1972年10月23日 財団法人伊藤科学振興会研究助成金受賞
- 1995年6月2日 高梨学術奨励基金研究助成金受賞
- 1996年度 受託研究費山武考古学研究所研究代表者『黒曜石の理化学的研究』
- 1997年度 受託研究費群馬県埋蔵文化財調査センター研究代表者『三和工業団地遺跡出土黒曜石産地分布』
- 1997年度 受託研究費長野県埋蔵文化センター研究代表者『日向林B遺跡・貫ノ木遺跡の黒曜石理化学分析他』
- 1998年度 受託研究費北海道北見市中本遺跡調査団研究代表者『北海道北見市中本遺跡黒曜石の分析』
- 1998年度 文部省科学研究費補助金研究代表者基盤研究C『黒曜石水和層年代測定法の高精度化に関する研究』(～1999年度)
- 1999年度 日本私立学校振興・共済事業団平成11年度(第24回)学術研究振興資金学術研究代表者『小型研究用原子炉のデコミッションングに関する研究』
- 2000年度 日本私立学校振興・共済事業団平成12年度(第25回)学術研究振興資金学術研究代表者『小型研究用原子炉のデコミッションングに関する研究』
- 2000年度 明治大学学術フロンティア『黒曜石研究センター』学外協力研究員・理論と方法グループ代表(～2004年度)
- 2002年度 文部科学省科学研究費補助金 研究代表者 基盤研究B『被熱考古学的黒曜石のフィッシュトラック年代による2万年前超のC-14年代の較正』(～2003年度)
- 2004年度 立教大学研究奨励助成金学科間共同研究代表者『黒曜石考古気候学の創生・確立に関する研究』
- 2005年度 立教大学研究奨励助成金学科間共同研究代表者『黒曜石考古気候学の創生・確立に関する研究』
- 2005年度 (助)地球環境財団研究奨励助成金受賞

その他：[JICA 研修員受入れ (のべ4名5回)]

インドネシア国 (Mr. Wikarno, Mr. Ijep(1), Mr. Ijep(2)), マレーシア国 (Mr. Ung Inn Kan), フィリピン国 (Ms. Estrellita U. Tabora)

## 鈴木 正男先生 業績一覧

### 論文・報告書

1. Suzuki, M. 1965.09 : Hunting temperature reaction. 人類学雑誌73, 110-111.
2. Suzuki, M. 1966.04 : Hunting temperature reaction II. 人類学雑誌, 74, 49.
3. Watanabe, N. & Suzuki, M. 1969 : Fission track dating of archaeological glass materials from Japan. Nature, 222, 1057-1058.
4. 鈴木正男, 1969 : フィッショントラック法による曾根遺跡出土黒曜石片の原産地推定. 考古学ジャーナル, 36, 12-15.
5. 鈴木正男, 1969.11 : Fission Track 法による和田峠産黒曜石の年代測定法. 科学, 39, 622-623.
6. Suzuki, M. 1969.12 : Peripheral response to cold. 人類学雑誌, 77, 213-223.
7. 鈴木正男, 1969.12 : フィッショントラック法による黒曜石の噴出年代とウラン濃度の測定 (第 I 報). 第四紀研究, 8, 123-130.
8. Suzuki, M. 1970.03 : Fission track ages and uranium contents of obsidians. 人類学雑誌, 78, 50-58.
9. Suzuki, M. 1970.03 : Fission track dating of archaeological materials from Japan. Proc. VIIIth Int. Congr. of Anthropol. and Ethnol. Sciences, 3, 169-171.
10. 鈴木正男, 1970.03 : フィッショントラック法による黒曜石の噴出年代とウラン濃度の測定 (第 II 報). 第四紀研究, 9, 1-6.
11. Suzuki, M. 1970.06 : K-Ar and fission track ages of some obsidians from Japan. 地質学雑誌, 76, 309-313.
12. 鈴木正男, 1971.11 : 三里塚. 千葉県北総公社. 230-232.
13. 鈴木正男, 1971.12 : 野川先土器時代遺跡の研究. 第四紀研究, 10, 231-270.
14. 鈴木正男, 1971.12 : 南関東の立川, 武蔵野ロームにおける先土器時代遺物包含層の編年. 第四紀研究, 10, 290-316
15. 鈴木正男, 1972.05 : 浜別海遺跡. 北地文化研究会. 169-170.
16. Suzuki, M. 1972.12 : Chronology of the Tachikawa loam as established by fission track and obsidian hydration dating. 第四紀研究, 11, 281-288.
17. Suzuki, M. 1973.03 : The use of obsidian for fission track dating with special reference to the fading of spontaneous fission tracks observed in samples from the Niigata oil field. 地質学論集, 8, 173-182.
18. 鈴木正男, 1973.03 : 伊豆諸島出土の黒曜石に関する原産地推定とその問題. 文化財の保護, 5, 147-158.
19. Suzuki, M. 1973.03 : Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan, Part I-Frame-

- work for reconstructing prehistoric human activity in obsidian. J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. V., 3, 241-318.
- 20. Suzuki, M., 1973.12.10 : Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan.
21. 鈴木正男, 1974.03 : 千葉ニュータウン遺跡. 千葉県北総公社, 381-389.
22. Suzuki, M. 1974.03 : Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan, Part II -Time-space analysis of obsidian transportation. J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec V., 4, 395-469.
23. 鈴木正男, 1975.06 : 那覇山下町洞穴発掘経過報告. 人類学雑誌, 83, 125-130.
24. 鈴木正男, 1976.03 : 田中谷戸遺跡. 田中谷戸遺跡調査会, 107-111.
25. 鈴木正男, 1976.12 : 市立第五中学校遺跡. 市立第五中学校遺跡調査会, 121-124.
26. 鈴木正男, 1976.12 : 荒屋敷貝塚. 荒屋敷貝塚遺跡調査会, 60-62.
27. 鈴木正男, 1977.08 : 考古化学とその周辺ーフィッション・トラック法による年代測定ー. 化学の領域, 31, 71-80.
28. 鈴木正男, 1977.12 : 五領ヶ台遺跡の黒曜石の分析. 自然と文化, 1, 27-29.
29. 鈴木正男, 1978.03 : 動坂遺跡. 動坂貝塚調査会, 27-31.
30. 鈴木正男, 1979.03 : 沖ノ島 I. 宗像大社復興期成会, 536-537.
31. Suzuki, M. 1979.10 : Progress report of the Indonesia-Japan joint research project on geology of human fossil-bearing formations in Java ( I ). Bull. Geol. Res. and Dev. Centre, 1, 47-60.
32. Suzuki, M. 1979.12 : Stratigraphy and geological structure in the central part of Sangiran dome. Bull. Geol. Res. and Dev. Centre, 2, 55-61.
33. 鈴木正男, 1980.03 : 鈴木遺跡Ⅲ. 鈴木遺跡調査会, 333-341.
34. 鈴木正男, 1980.03 : 黒曜石石器の年代測定と産地推定. 古文化財の研究, 68-81.
35. 鈴木正男, 1982.03 : 尾崎遺跡. 練馬区遺跡調査会, 310-311.
36. Suzuki, M. 1983.10 : Fission track dating-Current argument on dating younger zircon crystals-. 放射線, 10, 68-74.
37. Suzuki, M. 1983.12 : Basic data for identifying the source of archaeological obsidian by activation analysis and discriminant analysis. St. Paul's Review of Science, 4, 99-110.
38. Suzuki, M. 1983.12 : Intrasite obsidian analysis of the Suzuki site, Tokyo. St. Paul's Review of Science, 4, 111-120.
39. 鈴木正男, 1984.03 : 亀ヶ岡石器時代遺跡. 青森県郷土館, 205-206.
40. 鈴木正男, 1984.03 : 橋本遺跡. 橋本遺跡調査会, 244-273.
41. 鈴木正男・一色直記, 1984.03.31 : 八丈島湯浜遺跡の黒曜石の分析. 付編 八丈島湯浜遺跡出土資料の理化学的分析結果 2, 八丈島湯浜遺跡, 東京都埋蔵文化財調査報告, 11, 71-74.
42. Suzuki, M. 1984.08 : Discussion on terminology, anisotropy, and interprocedural cross-checks of fission track ages of zircon. 地質学雑誌, 90, 551-563.
43. Suzuki, M. 1984.12 : Intrasite obsidian analysis of the Hashimoto site, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken, Japan. St. Paul's Review of Science, 4, 121-130.
44. Suzuki, M. 1984.12 : Obsidian analysis : 1974-1984. St. Paul's Review of Science, 4, 131-140.
45. Suzuki, M. 1984.12 : Basic data for direct determination of fission track zeta constants for NBS SRM 961, 962, Corning Glass 1 and 2 using Fish Canyon tuff age standard zircon. St. Paul's

- Review of Science, 4, 141-156.
46. 鈴木正男, 1985.03: 長門深川古窯. 山口県教育委員会, 20-31.
  47. 鈴木正男, 1985.04: 黒曜石研究の現状と課題—関東・中部地方の事例を中心に—. 考古学ジャーナル, 244, 2-6.
  48. Suzuki, M. et al., 1985.10: Fission track ages of pumice tuff, tuff layers, and javites of hominid fossil-bearing formations in Sangiran, central Java. Special Publication of Geological Research and Development Centre, Bandung, Indonesia, 4, 309-357.
  49. Suzuki, M. 1986: Subdivision and correlation of the Quaternary in Japan. Recent Progress of Natural Sciences in Japan, 11, 3-16.
  50. 鈴木正男, 1986.03: 僧西大宮バイパス No.4 遺跡. 大宮市遺跡調査会, 112-122.
  51. 鈴木正男, 1986.06: フィッシュントラック年代測定法の現状. 月刊地球, 84, 363-369.
  52. 鈴木正男, 1986.07: 代官山遺跡. 神奈川県立埋文センター, 442-451.
  53. 鈴木正男, 1987.02: NBS/SRM 962a の B および  $\lambda$  値とその問題について. 放射線, 13, 52-59.
  54. 鈴木正男, 1987: 明石海岸における火山灰層のフィッシュントラック年代. 国立歴史民族博物館研究報告, 13, 191-200.
  55. 鈴木正男他, 1988.02: フィッシュントラック年代測定法. 地質学論集, 29, 37-57.
  56. 鈴木正男, 1988.04: 第四紀火山灰層のフィッシュントラック年代について. 地質学論集, 30, 219-221.
  57. Miller, D. S., Eby, N., McCorkell, R., Rosenberg, P. F., and Suzuki, M. 1990: Results of interlaboratory comparison of fission track ages for the 1988 Fission Track Workshop. Nuclear Tracks and Radiation Measurements, 17, 237-245.
  58. 鈴木正男・戸村健児, 1989.03.25: 小沼湯滝バイパス関係遺跡発掘調査報告書 I 日焼遺跡・南原遺跡・屋株遺跡・大倉崎館跡. 飯山市埋蔵文化財調査報告書第 19 集, 飯山市教育委員会, 104-106.
  59. 鈴木正男, 1989.03: 西大宮バイパス No.5 遺跡. 大宮市遺跡調査会, 91-97.
  60. 鈴木正男, 1990: 四葉地区遺跡旧石器時代黒曜石の分析 四葉地区遺跡旧石器時代編, 板橋区四葉遺跡調査会.
  61. Suzuki, M. 1990: Systematics in fission track dating. Nuclear Tracks and Radiation Measurements, 17, 430.
  62. 佐藤興平・鈴木正男・柴田 賢, 1990: アパタイトのフィッシュン・トラック年代からみた丹沢岩体の冷却史と丹沢産地の変性作用. 地質学雑誌, 96, 69-72.
  63. 鈴木正男, 1990.03: 下箱田向山遺跡. 建設省・群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, 81-85.
  64. 鈴木正男・戸村健児, 1990.03: 鶴岡 2 遺跡 II — 農地造成に伴う発掘調査報告書 —. 北海道上磯郡木古内町教育委員会, 201-203.
  65. 鈴木正男, 1991: 第四紀年代データベースについて. 月刊地球, 13, 259-264.
  66. 野内秀明・鈴木正男・戸村健児, 1991: 三浦半島出土黒曜石の産地推定と水和層法年代測定について. 横須賀市博研報 (人文), 36, 1-30.
  67. 鈴木正男, 1991: 砂田台遺跡 II
  68. 鈴木正男・戸村健児, 1991.03.31: 三の原遺跡出土の黒曜石の分析. 第 VIII 章 自然科学的分析 2, 三

- の原遺跡，立教学院三の原遺跡調査団，220-229.
69. 鈴木正男・戸村健児，1991.09.30：王子ノ台遺跡出土黒曜石の分析（中間報告）．東海大学校地内遺跡調査団報告2，39-43.
  70. 鈴木正男，1991.11：中ッ原第5遺跡B地点の黒曜石の分析．中ッ原第5遺跡B地点の研究，八ヶ岳旧石器研究グループ，202-207.
  71. 鈴木正男，1992：長美代遺跡
  72. 鈴木正男，1992.03.31：黒曜石の分析．第9章，北海道礼文町浜中2遺跡の発掘調査，北海道礼文町教育委員会，126-128.
  73. 鈴木正男，1993.03：長野県黒耀石原産地遺跡分布調査報告書．和田村教育委員会，203-217.
  74. 鈴木正男・戸村健児，1995.03：西大宮バイパス No.6 遺跡．大宮市遺跡調査会，79-82.
  75. 鈴木正男・戸村健児，1995.03：神奈川県指定史跡吉井貝塚を中心とした遺跡史跡整備報告書．横須賀市教育委員会，90-92.
  76. Tabora, E. U., Santos, G. P. Jr., and Suzuki, M. 1996：Fission Track Dating of Zircons from Northern Palawan. *The Nucleus*, 32, 36-38.
  77. 鈴木正男，1996：下戸塚遺跡の調査．早稲田大学阿部球場跡地文化財調査報告書，388-392.
  78. 鈴木正男・戸村健児，1996.12.26：（天引狐崎・北西の久保・中高瀬観音山遺跡）黒曜石の分析天引狐崎遺跡Ⅱ．群馬県埋蔵文化財調査事業団，204-208.
  79. 鈴木正男，1997.03.31：下鎌田遺跡．関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書，山武考古学研究所，517-525.
  80. 鈴木正男・二宮修治・熊谷昌史，1998.03：四葉地区遺跡縄文時代黒曜石の分析．四葉地区遺跡縄文時代編，板橋区四葉遺跡調査会．
  81. 鈴木正男・熊谷昌史・榎本義宏，1998.03：中川貝塚出土黒曜石の分析．中川貝塚第3次調査，大宮市遺跡調査会．
  82. 鈴木正男・熊谷昌史，1998.03：高野南遺跡の黒曜石の分析．山武考古学研究所，高野南遺跡
  83. 鈴木正男，1998.03：新堀東源ヶ原（行田Ⅲ）遺跡の黒曜石の分析．新堀東源ヶ原（行田Ⅲ）遺跡，山武考古学研究所．
  84. 鈴木正男，1998.03：横川大林遺跡の黒曜石の分析．横川大林遺跡，山武考古学研究所．
  85. 鈴木正男，1998.03：五料野ヶ久保遺跡の黒曜石の分析．五料野ヶ久保遺跡，山武考古学研究所．
  86. 鈴木正男，1998.03：行田大道北遺跡の黒曜石の分析．行田大道北遺跡，山武考古学研究所．
  87. 鈴木正男，1998.03：八城二本杉遺跡の黒曜石の分析．八城二本杉遺跡，山武考古学研究所．
  88. 鈴木正男・戸村健児，1998.03.25：黒曜石分析．白井遺跡群－縄文時代編一，第5章第4節，（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第23集，225-227.
  89. 鈴木正男他，1999.12：小型研究用原子炉のデコミッションングに関する研究．日本私立学校振興・共済事業団平成11年度（第24回）学術研究振興資金学術研究報告，9-12.
  90. Cristino, C. F., Enomoto, Y., Kumagai, M., Ninomiya, S., Stevenson, C. M., Suzuki, M., Teshirogi, M. and Tomura, K., 1999.12.25：Analytical Data of Rapa Nui Geologic Obsidians by INAA and EDXRF. IAERU-9901, 1-21. (Alphabetical Order)
  91. Ambiru, M., Enomoto, Y., Kumagai, M., Ohtake, N., M., Stevenson, C. M. and Suzuki, 1999.12.25：Analytical Data of Nagano Geologic Obsidians by INAA. IAERU-9904, 1-32.



(Alphabetical Order)

92. Cristino, C. F., Enomoto, Y., Kurosaki, T., Kumagai, M., Ninomiya, S., Stevenson, C. M. and Suzuki, M., 1999.12.25 : Analytical Data of Rapa Nui Archaeological Obsidians by INAA and EDXRF. IAERU-9903, 1-22. (Alphabetical Order)
93. 鈴木正男・熊谷昌史・榎本義宏, 2000.03.31 : 日向林 B・セツ栗・大平 B 遺跡出土黒曜石の分析. 第 6 章 自然科学分析 第 7 節, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 48, 242-253.
94. 鈴木正男・熊谷昌史・榎本義宏・渡辺圭太, 2001.03.31 : 裏ノ山・東裏・大久保南・上ノ原遺跡出土黒曜石の分析. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書.
95. 鈴木正男・熊谷昌史・榎本義宏・渡辺圭太, 2001.03.31 : 西岡 A・貫ノ木・星光山荘遺跡出土黒曜石の分析. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書.
96. 鈴木正男・渡辺圭太・安森政雄, 2003 : 鷹山遺跡群第 XII 遺跡黒曜石研究センター地点出土考古学的被熱黒曜石試料のフィッシュトラック年代 (NA-LEVEL  $N_s = 100$ ). 「鷹山遺跡群 VI - 明治大学黒曜石研究センター地点の発掘調査 -」 (Takayama Site Cluster-Excavation at Loc. Meiji University Center for Obsidian and Lithic Studies, 2000 Season), 105-108.
97. Suzuki, M., 2003 : An approach to the palaeoclimatic reconstruction using obsidian hydration as a temperature indicator. Melos International Workshop, Melos Island, Greece, 2-5 July, 2003
98. Ambrose, W., Stevenson, C., and Suzuki, M., 2003 : Current trends of obsidian studies in the Circum-Pacific region. The Bulletin of Meiji University Center for Obsidian and Lithic Studies, 2, 195-208.
99. Suzuki, M. and Watanabe, K., 2004 : Fission Track Ages of Indochinite Tektite from the Son Vi Cultural Layer. In (Imamura, K. and Chu Van Tan, Eds.) The Lang Vac Sites, Volume I : Basic Report on the Vietnam-Japan Joint Archaeological Research in Nghia Dan District, Nghe An Province, 1990-1991, The Vietnam-Japan Joint Archaeological Research Team (The 21st Century COE Program of the University of Tokyo), 222-223.
100. 池谷信之・渡辺圭太・鈴木正男, 2005 : 旧石器時代の神津島黒曜石と海上渡航. 考古学ジャーナル, 525, 12-14.
101. 渡辺圭太・鈴木正男, 2006 : 黒曜石の水和速度と化学組成の関係について. 考古学と自然科学, 54, 1-12.
102. Suzuki, M., Allen, C., Ambiru, M., Ambrose, W., Campbell, I., Ikeya, N., Mochizuki, A., Otake, N., Sato, H., Shimada, K., Tomura, K., Tsurumaru, T., Watanabe, K., and Yamashina, T. : Comparison of EDXRF, INAA, and LA/ICP-MS for Sourcing Archaeological Obsidians. In (Suzuki, M., Ambrose, W., and Summerhayes, G., Eds.) Obsidian Summit (in press).
103. Liritzis, I., Suzuki, M., Yamashina, A., Otake, N., and Watanabe, K. : SIMS H(+) Profiling of Japanese Obsidians. In (Suzuki, M., Ambrose, W., and Summerhayes, G., Eds.) Obsidian Summit (in press).

## 著書

104. 鈴木正男, 1974.01 : 最古の狩人たち (共著). 講談社

105. 鈴木正男, 1975.11: 日本の旧石器文化1 (共著). 雄山閣
106. 鈴木正男, 1976.02: 過去をさぐる科学. 講談社
107. 鈴木正男, 1976.12: 現代生物学大系4 脊椎動物B (共著). 中山書店
108. 鈴木正男, 1977.01: 日本の第四紀研究 (共著). 東京大学出版会
109. 鈴木正男, 1981.08: 考古学のための化学10章 (共著). 東京大学出版会
110. 板谷徹丸・今井 登・大村明雄・鈴木正男・中井信之・蜷川清隆・広岡公夫編, 1988: 人類紀の年代測定, 地質学論集, 日本地質学会, 29, 318.
111. 鈴木正男, 1993.08: 第四紀試料分析法 (1 試料調査法; 2 研究対象分析法). 東京大学出版会
112. 鈴木正男, 2003.03.27: フィッシュントラック法. 第9編 遺跡・古環境, 第3章 年代測定 第2節, 地球環境調査計測事典 第2巻 陸域編②, (株)フジ・テクノシステム, 817-818.
113. Suzuki, M., Ambrose, W., and Summerhayes, G. (Eds.), 2007: Obsidian Summit (in press).

### 国内学会・口頭発表 (最近5年間)

114. 渡辺圭太・鈴木正男, 2003: 黒曜石の水和速度と化学組成の関係について. 日本文化財科学会第20回大会 (松江) 研究発表要旨集, 2-3.
115. 鈴木正男・Allen, C.・安森政雄・Ambrose, W.・Campbell, I.・池谷信之・望月明彦・大竹憲昭・佐藤宏之・島田和高・戸村健児・鶴丸俊明・渡辺圭太・山科 哲, 2004: 黒曜石産地推定測定方法間比較と最適分析フローの予備的考察. 日本文化財科学会第21回大会 (京都) 研究発表要旨集, 30-31.
116. 渡辺圭太・Liritzis, C.・Stevenson, C.・Tsamasfyrou, M.・鈴木正男, 2004: 黒曜石水和層年代測定法による古気候復元への試み. 日本文化財科学会第21回大会 (京都) 研究発表要旨集, 84-85.
117. 渡辺圭太・鈴木正男・望月明彦, 2005: 黒曜石の産地推定と測定方法間比較 (特に北海道の黒曜石を用いて). 日本文化財科学会第22回大会 (札幌) 研究発表要旨集, 262-263.
118. 鈴木正男, 2006: 世界の黒曜石研究の現状. 日本文化財科学会第23回大会 (東京), 6月17日・18日
119. 渡辺圭太 (立教大学), 比屋根肇 (東京大学), 鈴木正男 (立教大学), 2007: 二次イオン質量分析 (SIMS) を用いた H<sup>+</sup> プロファイリングによる黒曜石水和層の研究. 第24回日本文化財科学会 (奈良) 6月2日・3日

### 翻訳

120. 鈴木正男, 1971.02: 攻撃性の自然史 (共訳, 原著コンラッド・ローレンツ). ペリかん社
121. 鈴木正男, 1976.10: 比較人間論—人間研究序説— (共訳). 広川書店
122. 鈴木正男, 1977: ミッシング・リンク. タイムライフブックス
123. 鈴木正男, 1986.03: 加速器質量分析による放射性炭素年代測定. サイエンス, 3, 66-74.
124. 鈴木正男, 2008: イースター島の‘謎’ (原題: John Flenley and Paul Bahn, 2003: The Enigmas of Easter Island, Oxford University Press). 講談社 (刊行予定)